



退任のご挨拶

石渡伸幸

私は、昭和62年初当選以来7期28年間、千代田区議会議員として、皆さまから負託を受けて区政に従事してまいりました。この間、第57代議長を筆頭に、委員長、監査委員等々の要職を経験してきました。公共施設適正配置対策特別委員会(学校統廃合)、庁舎・公共施設整備特別委員会(新庁舎建設)、区政初の百条委員会である小学校校舎解体工事等に関する調査特別委員会、特にオリンピック・パラリンピック対策特別委員会において委員長を務められたことは議員冥利に尽きます。

引退後は、頂いたご恩を忘れることなく一層の努力、精進をし、長い議員経験を地域のために役立てる所存でございます。何卒、今まで同様のご支援、ご尽力、苦言のほどをお願いしまして感謝の言葉と致します。本当に長い間、有難うございました。

鳥海隆弘

区民の皆さまのご指導、ご支援のもと区政に参画させていただいて早いもので24年が過ぎました。この間、議長はじめ多くの委員会で委員長という貴重な経験を、議会人として千代田区のために邁進してきました。振り返ると本当にあっという間の年月でした。今後も千代田区に生涯住み続け、一区民として千代田区政を見守っていきたく思います。ありがとうございました。

高山はじめ

平成9年2月、木村茂区長の選挙と一緒に区議会補欠選挙で当選して以来、5期18年間、応援していただいた区民の皆さまには本当にお世話になりました。生まれ育った千代田区は皇居を拝する特別な区です。その議員を長年させていただいたことに誇りを持ち続けて参ります。今後も千代田区と議会を区民の一人として応援して参ります。本当にありがとうございました。



▲鳥海隆弘 高山はじめ 石渡伸幸



予算特別委員長

小林 やすお

予算特別委員会は、26年度補正予算(案)「旧万世橋警察署跡地」「旧麹町消防署九段出張所跡地」「旧神田消防署駿河台出張所跡地」の取得等、及び27年度当初予算(案)審査のために設置され、私が委員長に選任されました。最初に26年度補正予算(案)を全議員で審査し賛成全員で可決。次に、3常任委員会(企画総務・生活福祉・環境文教)を予算分科会とし所管の予算を分割調査、その後全予算を全議員で総括審査する運びとなります。

その中で、保健福祉事業・次世代育成事業が最優先で予算化されたこと、2020年東京五輪に向け千代田区の魅力を内外に発信する予算であることが確認されました。しかし、区の大規模な組織改正(案)については、議会とのすり合わせが十分でなく、議会として指摘せざるを得ませんでした。執行機関においては議会との意思疎通を図るとともに、円滑な執行を約束し27年度当初予算(案)は賛成多数で可決いたしました。なお、介護保険特別会計予算は賛成全員でした。



石渡伸幸



鳥海隆弘

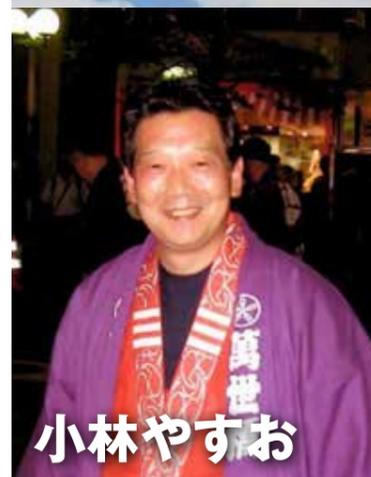


戸張孝次郎



高山はじめ

区政をリードする 自民党議員団に ご期待ください!



小林やすお



永田壮一



松本佳子



桜井ただし



嶋崎秀彦



内田直之



あなたの声をお聞かせください!

千代田区自由民主党議員団 ●お電話で 03-5211-4320 ●FAXで 03-5275-6882

千代田区政と千代田区民をつなぐ[VOICE] 2015年春号(年4回発行) 千代田区自由民主党議員団 活動レポート
発行: 千代田区議会 自由民主党議員団 〒102-8688 東京都千代田区九段南1-2-1(千代田区役所7F)



平成27年 第1回 区議会定例会

代表質問 桜井 ただし

基本計画の改定と平成27年度の予算編成



Q 基本計画の改定に際し平成27年度の予算編成との関係は大変重要。今回、執行機関より大幅な組織改正案が定例会ギリギリのタイミングで示された。議会とすりあわせをする時間もなくて問題と指摘せざるを得ない。執行機関は真摯に受け止めるべき。オリンピックなど全庁的な調整が必要な部署に関する組織整備については、こども教育部を『こども共育』と改める組織の名称変更は区民に分かりづらく改めるべき。

A 指摘の通り計画と予算の関係は非常に大切であり整合をとりながら予算編成を進めてきた。組織整備の提案が遅れた事については、大変遺憾に思っている。オリンピック開催に向け分野別の所管だけでは対応できない。課題が多々あることも指摘のとおりで全庁を挙げて取り組む体制が不可欠。指摘の通り組織の名前は、なじみやすい、わかりやすいということが前提、教育委員会の中で決定されるがご意見に沿うような方向になることを区長として願っている。

東京オリンピック・パラリンピックについて

Q 案内標識等の見直しの進め方は。また、推進プロジェクトの柔軟な遂行については。

A 千代田区の魅力をアピールする観点からも、わかりやすいデザインや多言語対応など、見直すべきところが多い。「風格のあるまち千代田区」にふさわしい統一感のあるものに見直し整備をする。国や都の動向等により柔軟な対応が

必要である点は指摘のとおり。開催までの5年間について固定したものではなく適時必要に応じて取り組み事項の追加や内容の変更を行っていく。

高齢者総合サポートセンターについて

Q 地域包括ケアシステム拠点施設としての果たす役割はなにか。また、総合サポートセンターで行われる介護予防とは。

A 区民にとって24時間365日、何かあっても安心して相談できる場と、見守り・支えられているという確信が持てる医療・看護・介護体制の環境づくり。介護予防には利用者を対象に元気な高齢者が活動的で楽しみながら参加する健康づくり・レクリエーション・講座講習会等のプログラムをボランティアなどとも協働して実施。

保育園待機児童ゼロの維持にむけた対応について

Q 次世代育成施策の中で保育園待機児童ゼロの維持にむけた対応は。在宅における子育て世帯への支援は。また、保育士の確保策について。

A 保育園の計画的な整備として5年間で保育所等の定員561名の増を予定。学童クラブの計画的な整備は九段小学校に学校内学童クラブを新たに設置、既存の学童クラブの定員増、民間学童クラブを誘致する。また、在宅における子育て世帯への支援は保護者からの子育て相談を受けたり、子どもを預けたいときに預けられる一時預かり保育や、ファミリー・サポート・センターなど地域の子育て支援に取り組む。正規職員の保育士1人当たり月額2万円を限度に、給与上乘せ分の補助、または、働く職場の環境改善経費への補助をすることで、保育士の処遇改善を図る。質の高い保育士の育成については区立・私立の各保育園に大学教授などの学識経験者を呼び、現場での実践的な研修を実施する

この他、マンションに居住者する高齢者の見守り活動について質問をしました。

一般質問 内田 直之

ZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)によるCo2排出量の削減



Q 区内では、Co2排出量の75%をビル等の業務部門が占めている。千代田区の地球温暖化対策やヒートアイランド対策における最優先テーマは、建物のエネルギー対策である。国が定めたエネルギー基本計画を遵守し、2020年までに新たな公共施設をZEBとしなくてはならない。

A 現在改定作業中の「千代田区地球温暖化対策地域推進計画2015」に、ZEBモデル施設の設置を位置付け、その取り組みや運用状況等を積極的に発信し、区内テナントビルの低炭素化を促進する。

大学図書館の区民利用について

Q 図書館は、文化的で豊かな生活を維持する場であり、地域社会においても重要な役割を果たすことが期待されている。12の大学図書館で区民が利用できるが、利用状況は芳しくない。大学図書館をもっと区民が利用しやすい環境とすべく、利用内容の把握、利用者負担の軽減、そして、区民の皆さまへの利用案内の周知を提案する。

A 区民の大学図書館の利用実態やニーズをより詳細に分析した上で、利用内容や利用者負担軽減の検討を行い、大学図書館と協議していく。そして、区民向けの一層のPRに努め、利用しやすい環境を構築していく。

その他、「ちよくる」の課題を指摘し、都心4区と東京都が締結予定である「自転車シェアリング事業における相互協力に関する基本協定」について確認しました。



▲警視庁騎馬隊

一般質問 永田 壮一

戦後70年イベントについて



Q 行政として戦争の悲惨さを強調したり理想論で平和を発信することは無責任ではないか。紛争・テロが絶えない世界の实情、現実的な安全保障の観点から平和を考えるべきではないか。

A 貧困・平和・人権を市民同士でお互いに考え、交流を繰り返し行うことが平和につながる(区長答弁)。

危機管理の取組について

Q いつ発生する分からない大規模災害、テロ等の有事に備えるために自衛隊・警察・消防との連携強化が必要である。特に危機管理業務に退職自衛官採用を求める。

A 消防庁の職員を派遣受け入れしている。退職自衛官採用は他自治体の事例を参考に。近年はないが大規模な訓練の際には自衛隊とも協力して行う。

平和を考える前に自国の歴史に誇りを持たなければならない。私は安倍政権の推進する「積極的平和主義」に賛同するが、千代田区政の考え方は違うようだ。戦後長きにわたり我が国を支配してきた左傾化した平和教育を根本から変えていくことが必要である。